

「当院における悪性胃十二指腸閉塞に対する診療の実態調査」

の臨床研究へのご協力のお願い

悪性胃十二指腸閉塞(Gastric outlet obstruction ; GOO)は悪性腫瘍により引き起こされる上部消化管(胃や十二指腸)の通過障害です。胃癌・膵癌・胆道癌などが主な原因疾患となり、切除不能症例の約 20% に GOO が生じるとされています。膵癌診療ガイドライン 2022 年版では、GOO を伴う切除不能膵癌において、内視鏡的消化管ステント留置を行うことが提案されており、また比較的長期予後が期待される場合には、外科的胃空腸吻合術を考慮してもよいと記載されています。しかしながら、施設によって治療方針が異なっており、いずれの治療法を選択するかについて一定の指針がないのが現状です。また、GOO の病態も、原因疾患や狭窄の部位・長さなどによって多岐にわたるため、症例に応じて適切な治療法を選択する必要があります。

そのため、今回当院における GOO の実態を明らかにすることを通じて、より適切な GOO の治療戦略を模索することを目的として、当院で診療を行った GOO の症例を対象とした観察研究を計画しました。

対象となるのは、2020年1月から2023年12月の期間に当院で診療を行った、胃癌・膵癌・胆道癌の患者さんのうち、GOO が見られたために内視鏡治療を行った患者さんです。

調査項目は、患者さんの年齢、性別、検査結果(血液検査、CT 検査、MRI 検査、内視鏡検査、病理検査など)、治療法、治療効果、安全性、予後、などを調査します。

本研究は日常診療で得られた臨床データを集計する研究であり、これにより患者さんに新たな検査や費用の負担が生じることはありません。また、研究に扱う情報は個人情報を持ち離して、個人が特定されない形で、厳重に扱います。

皆さんの貴重な臨床データを使用させていただくことにご理解とご協力をお願いいたします。

本研究に関する研究計画書および研究の方法に関する資料を入手又は閲覧されたい場合、もしくはご自身のデータを研究に使わないでほしいと希望されている方は、下記の連絡先までご連絡ください。

当院における連絡先

国立病院機構九州がんセンター 消化器・肝胆膵内科
研究責任医師： 脇岡 真之
電話： 092-541-3231(代表)